

知られざる「台湾の靖国神社」

四万の戦死者を祀る南天山済化宮

台湾研究フォーラム副会長

片木 裕一



済化宮本堂の全景

台湾観光ツアーではよく台北市内の忠烈祠に連れて行かれ、しばしば「ここは台湾の靖国神社です」と説明されるが、そこはいうまでもなく「中華民国」の英霊を祀るところ。しかし日本人にはほとんど知られていないが、真正銘の「台湾の靖国神社」が新竹県北埔の山間に存在する。ここに紹介する南天山済化宮がそれだ。

本堂は観音廟だが、その横の七階建ての建物に、大東亜戦争で戦歿した台湾人約四万人が祀られているのだ。

昨秋の参拝の折にご案内いただいた同宮招待組長の陳茂政氏（元日本海軍少年工）によると、創始者は詹（せん）という方で、今から約四十年前、夢枕に観音菩薩が現れ、これを創建するよう示唆

された。そこで日本の靖国神社へその旨申し出て、一九六五年に台湾人のご祭神名のコピーを申し受け、完成したとの解説であった。

靖国神社に祀られている台湾人は約二万八千人で、実際に戦死されたのは約三万人なので一万人も差があるが、陳氏によると、日本では「戦死」と見做されなかった方も祀られているのだという。また、ここでは四万人の位牌が安置されているが、これは台湾独特の慣習で、靖国神社とは異なる。

現在ここには、春節（旧正月）を中心に大勢の遺族が参拝に訪れており、遺族から「わざわざ日本の靖国神社まで行かなくてもお参りできる」として感謝されているそうだ。しかし、

参拝者は年々減少傾向なのだという。そもそも、戦後の国民党教育を受けてきた子供や孫の世代は大東亜戦争における台湾人従軍者への関心は希薄であり、やむをえないことだろう。

そうした中でも、今年四月の蘇進強主席ら台湾団結連盟による靖国神社参拝がきっかけで、このお宮と台湾人英霊がにわかにもマスコミの脚光を浴びたことは何よりだった。

機会があればぜひお参りを。



台湾人戦死者を祀るお堂

【南天山済化宮】新竹県北埔郷南坑村三鄰一号。電話〇三一五八〇一一二五六〇八。台北駅から竹東行きのバスで竹東へ（約一時間）。そこでタクシーかバスに乗り換え二、三十分。